

# ISAF Sailing World Cup Weymouth and Portland 報告書

レース委員会 鍵富 真一

## ❖ 開催地&会期

### ○ 開催地

Weymouth & Portland National Sailing Centre (2012年オリンピック開催地)

英国の場合、数あるセーリングクラブが大会をホストする形で、

英国各地でクラス別ワールドや英国選手権等のレースを実施するケースが多く見受けられるが(これは日本で各水域で開催するのに近い)、RYA が企画・運営に深く関与する大会においては、本会場が使われるようである。



### ○ スケジュール

2015年6月8日(月)	選手・コーチ登録
6月9日(火)	選手・コーチ登録・開会式 / 運営ボランティア集合・登録
6月10日(水)~13日(土)	Opening Series
6月14日(日)	Medal Race

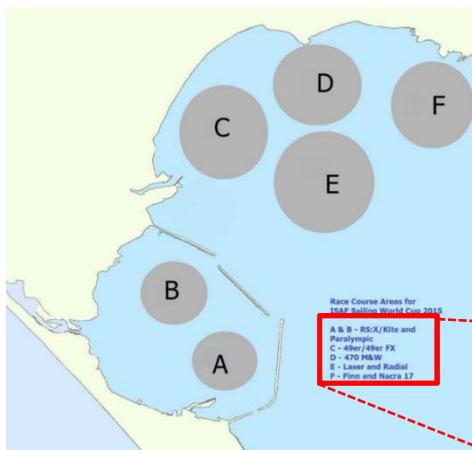
各クラスのレース数は以下の通り。パラリンピック種目(2.4mR, Skud 18, Sonar)は Medal Race は行わず、土曜で大会終了。

Event	SWC Rounds	SWC Final
470 M, 470 W, Laser, Laser Radial, Finn	8 + 1 Medal Race	6 + 1 Medal Race
RS:X M, RS:X W, 49er, 49erFX, Nacra 17	12 + 1 Medal Race	9 + 1 Medal Race
2.4mR, Skud 18, Sonar	8	-----

## ❖ レース運営

### ○ レース海面

レース海面は6海面(2海面が港湾内[Harbour]、4海面が湾内[Bay])



Area	Area Centre	Area Diameter	VHF Channel
Alpha	In Portland Harbour – South East side	1.00 nm	M2
Bravo	In Portland Harbour – North West side	1.00 nm	88
Charlie	50.37.20 N 02.25.10 W	1.20 nm	3
Delta	50.36.97 N 02.22.65 W	1.50 nm	4
Echo	50.35.50 N 02.21.80 W	1.50 nm	60
Foxtrot	50.36.65 N 02.20.25 W	1.50 nm	2

**A & B - RS:X/Kite and Paralympic**  
**C - 49er/49er FX**  
**D - 470 M&W**  
**E - Laser and Radial**  
**F - Finn and Nacra 17**

担当した C 海面(49er / FX)は Bay のなかでも Harbour を出て比較的近かったが、F 海面は相当離れている印象で、C 海面から

でも全く見えず。Nacra はいいかもかもしれないが、Finn は相当きつそうであった。一方で、Nacra と Finn は一緒の海面になることが多いとのこと(選手談)。

○ レース数

各クラスのレース日程は右表の通り。参加艇数が限られている(上限 40 艇)ということから、フライトを分けず(クラスを混ぜず)、各コース午前、午後で分けて日ごとに入れ替えで一クラスずつ実施。各日最初の予告信号が 11 時と比較的遅いなかで 1 日に 6 レース(3 レース×2 クラス)実施は、日の長いイギリスだからなせる業か？

おかげでトラペゾイドで実施するようなクラスも上下コースでの実施となり(4 日目の 470 M/F を除く)、運営的にはその分楽になった気がした

因みに、3 日目が無風のためレースキャンセルとなったことを受け、4 日目は朝を 30 分早めて C 海面は 8 レース実施。しんどかったです。

	Area	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
		Time #	Time #	Time #	Time #	Time #
Paralympic One Person Keelboat	A	1100 2	1315 2	1100 2	1315 2	
Paralympic Two Person Keelboat	A	1330 2	1100 2	1330 2	1100 2	
Paralympic Three Person Keelboat	A	1110 2	1325 2	1110 2	1325 2	
Men's Windsurfer	B	1100 3	1330 3	1100 3	1330 3	TBA 1
Women's Windsurfer	B	1330 3	1100 3	1330 3	1100 3	TBA 1
Men's One Person Dinghy	E	1100 2	1315 2	1100 2	1315 2	TBA 1
Women's One Person Dinghy	E	1315 2	1100 2	1315 2	1100 2	TBA 1
Heavyweight Men's One Person Dinghy	F	1100 2	1315 2	1100 2	1315 2	TBA 1
Men's Skiff	C	1100 3	1330 3	1100 3	1330 3	TBA 1
Women's Skiff	C	1330 3	1100 3	1330 3	1100 3	TBA 1
Men's Two Person Dinghy	D	1100 2	1315 2	1100 2	1315 2	TBA 1
Women's Two Person Dinghy	D	1315 2	1100 2	1315 2	1100 2	TBA 1
Mixed Two Person Multihull	F	1315 3	1100 3	1315 3	1100 3	TBA 1
Formula Kite	B	1515 TBA	1515 TBA	1515 TBA	1515 TBA	TBA

○ スタート・シーケンス

今回の大会で一番の変更といえるのがスタート・シーケンスの変更。

- ・ まったく違うより視覚化した旗を使う
- ・ 適用規則は予告信号で示す白色旗(現行 U 旗)と 黒色旗(30.3)のいずれか

という大きな変更にもかかわらず、SIs の変更として運営要員へメールで知らされたのが 8 日(月)の朝。選手にも同じタイミングで告知されたようで、RYA の運営の面々も様にこのタイミングで? という反応が窺えた。

- ・ スタートまでの時間短縮
  - オレンジ旗が 10 分前 → 8 分前
- ・ メディアへの分かりやすさ
  - 色と数字。信号機を意識?
  - ゼネリコ抑制?

多分にメディアを意識したという印象を受ける今回の変更については、RYA のメンバーの間でも同じような意見をする人も多くいたが、運営の実務面では、旗の掲揚については、前日に予行練習をおこなったこともあり、特に混乱はなかった。

本部船の RO としては、適用規則に白旗か黒旗のいずれかしかを選べないという制約が出るものの、一方で X 旗の掲揚(Individual Recall)がないという点で、スリットを見る RO としての負担は寧ろ軽減する(X 旗掲揚の場合の時間的プレッシャーが減る。結果、将来的には失格艇のビデオ判定による対応も可能?) ような感じを受けた。(あくまでアウトターに乗っての意見ですので、本部船の RO が同じ思いかは分かりませんが。。)

参加した選手の評価を聞いていないので、何かの折に聞ければと思います。

ISAF SAILING WORLD CUP Starting Procedure				
Overall Time	Signal	Sound Signal	Flags	Summary
8	Orange Flag	Sound Signal	Raise Orange	 ↑ 
5	WARNING Number 5 or Black Number 5	Sound Signal	Raise Number 5	 ↑ or  ↑ 
3	PREPARATORY Number 3	Sound Signal	Lower Number 5 Raise Number 3	 ↓ or  ↓  ↑ 
2	Number 2	Sound Signal	Lower Number 3 Raise Number 2	 ↓  ↑ 
1	Number 1	Long Sound Signal	Lower Number 2 Raise Number 1	 ↓  ↑ 
0	Green Flag	Sound Signal	Lower Number 1 Raise Green	 ↓  ↑ 
-1		Orange only removed with Green if only 1 class on course	Lower Green Lower Orange	 ↓  ↓ ※

※オレンジ旗降下はスタート 4 分後

○ 運営チーム

ISAF Sailing World Cup 2015, WPNSA								
COURSE TEAM:		Yellow	COURSE AREA		RADIO CHANNEL:			
MARK TYPE:		Yellow	CHARLIE					
BOATS ENTERED:		49er and FX						
TOTAL		0						
Callsign	Flag No.	Role	Name	Boat Name	Accom	Location	Check In	Check Out
Yellow Committee	1	Course Race Officer	James Gollop	Gyrinus	Local			
		International Race Officer	Nathalie Peribel		RYA	Aqua Hotel	09-Jun	14-Jun
		Mentor	David Campbell-James		RYA	Ocean View	09-Jun	14-Jun
		DRO	David Rowlands		Own			
		Spotter/Recorder	Debbie Wood		Own			
		Spotter/Recorder	Scott Chadley		Local			
		Timekeeper	Irene Robinson		Local			
		Signals	Trudy Davies		Camper	WPNSA	09-Jun	14-Jun
		Boat Driver	David Reed		RYA	Ocean View	09-Jun	14-Jun
	Boat Driver	Andrew Winstanley						
Yellow Pin	2	ARO	Nick Frampton	WPNSA Protector P	Local			
		Spotter/Recorder	Paul Withers		RYA	Ocean View	09-Jun	14-Jun
		Spotter/Recorder	Shin Kagitomi (JPN)		RYA	Ocean View	08-Jun	14-Jun
		Spotter/Recorder	Peter Jackson		Local			
Marks 1	3	Senior Mark Layer	Hugh Sutherland	WPNSA Rib 1	Own			
		Senior Mark Assistant	Allan Castle		Local			
Marks 4	4	Mark Layer	Bob Wainwright	WPNSA Rib 2	Own			
		Mark Layer Assistant	James Mitchell		Own			
Course Safety Leader	5	CSL Helm	Alun Morgan	Morgan Rib	Local			
		CSL Crew	Chloe Bennet		RYA	Ocean View	09-Jun	14-Jun
Safety 2	6	Safety Helm	Chris Donaldson	Port Tack Charter 12	Local			
		Safety Crew	David Griffith		Local			

C 海面は 49er / FX の担当。本部船には、ISAF 指名の IRO が 1 名のって全体を統括。RYA から指名された CRO (Course Race Officer = 当該コースのレース運営責任者) が IRO の意見を聞きながら各運営スタッフに指示を出し、実質レースを取り仕切る。

現在、RYA では、オリンピックでの CRO 経験者のノウハウを若手に継承することをしており、今大会も CRO をサポートする Mentor として一緒に乗ってアドバイスを行う体制となっていた。尚、C 海面の運営メンバーの多くが、地元 Weymouth をベースとしている人たちということで、海面も良く知っていて、非常に息の合った運営を行っていた印象。

ISAF メジャーイベントということもあってか、イギリスの運営としては、運営艇・人も潤沢に配置されている印象を受けたが、それぞれ乗艇している各要員が自分の役割をはっきりと認識し、且つ非常に経験をつんでいるということもあり、役割を伝えれば RO としては余計な心配をしなくてレース運営に集中できるという意味では、運営要員一人ひとりのスキルをいかに上げていくかということが非常に重要であると感じた。

○ Start Pin (アウター) 兼 Finish Pin

- 4 人のチーム。ARO (Assistant Race Officer) である Nick が最若手でスリット。Paul は IJ でもあり、様々な大会での経験ありということで、実質仕切り役で Driver 兼ラインセッター兼スリットといったマルチな役目。Peter と自分が記録等々を担当。途中、Peter が腕を痛めて乗艇できなくなったため、3 日目で降メダルレースまで 3 名となる。
- Paul がかなり几帳面な性格 (Peter 曰く) だということもあって、コックピットは彼の Goods で取り囲まれることに。こちらの運営でよくあることなのですが、それぞれの人たちが自分で工夫したグッズを持っていて見ていて楽しいです。(写真を取り損なっていてすみません。)
- 今回、Start と Finish 両方のアウターを兼務するというのでアンカーは 2 本、ラインは 80~100m。水深が 15-16m 程度と浅いが、ラインの角度調整等を考慮して 60m 前後流していた。そのため、バウから沈むラインの角度が浅くなるので、ラインに重し ("Angel" と呼んでいました) をつけて沈めます。



コックピット (Goods の配置には Paul なりのこだわりが)



Angel

- Start と Finish(流し込み)両方なので、肝は最終艇 Finish から次の Start までの時間をいかに短くするかということで、初日の運営予行練習時に本部船から言い渡された目標はなんと、『最終艇 Finish の 2 分後にオレンジ旗掲揚』。あとで聞くと、コーチから間隔を短くという希望があるからとのこと。

これを達成するために、各アンカーラインの端にブイ(その形状から"Cherry"と呼ばれています)を付けておいて

- ① Start 時のアンカーは、Cherry で放置 ⇒ Finish ライン設置
- ② Finish 終了後、こちらも即 Cherry で放置
- ③ スタートラインの位置まで戻って Cherry をピックアップしてセット

これで、約 1 分 30 秒くらい。ただ、風向に変化があるときは Start ラインで①の Cherry ができない(アンカーを上げている)ので、Finish を Cherry してから新たにスタートラインでアンカーを打つこととなりますが、それでも 1 分 45 秒〜ギリギリ 2 分という感じで、このときばかりはかなりバタバタしますが、後半はチームの息もあって非常にスムーズにいきました。

いずれの場合も、残された Finish アンカーはというと、スタートの邪魔になってはいけないということで、これまた下マーカーレイヤーがスタート前までに一回一回上げて持ってきてくれるので、彼らが一番大変だったかも知れません。



Pin Boat の Paul(手前)と Nick

#### ○ マーカーレイヤー (Mark Layer)

- 1 艇 2 名チーム。今回はメジャーイベントということで、上・下マーク各 1 艇(計 2 艇)のマーカーレイヤーが C 海面には配置されていたが、普通のレースでは上下(+アウターマーク)程度なら 1 艇でやることも多い。RYA では、レース運営を仕切る立場である RO (Race Officer)とは別に、マーカーレイヤーという講習・資格制度があるくらい重要な役割。

- 本部船から指示された位置に『マーク』が設置されることが重要なため、まずはマークを想定位置に浮かべてから、必要なライン長だけ風・潮を考慮して上ってアンカーを落とす。マークを浮かべてからはラインにテンションをかけて上っていくので、傍から見てみるとマークはそのまま動かず打ち終わっている。このうち方だとゲートマーク設置も短時間且つ正確。その結果はラウンディングでの散らばりを見ても良く分かる。



C 海面 Mark 4 (下マーク) - 何度もアンカーを上げてもらいました(感謝!)

- マークを打つということが仕事であると同時に、コース変更があれば C 旗他信号を発信し、誰かの捨てたアンカー(アウター用とか)を率先してあげたりと、時間があればヘルプの手を差しのべてくれることには助かりました。アンカーをあげる際にはブイを使ってアンカーを浮かせていましたが、それでもハードワークに間違いはありません。
- 水深が深い場合に同じようにできるかという問題はあるものの、マークの打ち方含め、マーカーレイヤーのスキル向上が円滑なレース運営をする上で非常に重要であるということが、SWC の運営に参加して改めて感じたことのひとつ。

## ○ メダルレース

最終日のメダルレースは Harbour 内の 2 海面で実施。前日の終礼時に C 海面チームがメインとなる (TV 中継のある) 海面の担当だという話があり。海に出られなかった岡村さん、磯部さんには悪いと思いつつも、前日までと同様の体制で運営。基本的に海面を率いる CRO は James で変わらないものの、クラスごとの担当 CRO が各クラスのレース時に乗り込んで共同指揮を取る形となっていた。



Medal Race 前 - CRO の James (白ポロシャツ) が運営チームにブリーフィング中

レースは Nacra / Laser Radial / Finn / 470 W / Laser / 49er / FX の順に 7 レース。  
(470 M / RX M/W / Kite はもうひとつの海面で実施)



C 海面 & Medal Race 本部船

当日は、11:00 から 15:30 まで Live 中継があるということで、完全にそれを意識した運営。予定通りに行けば 7 レースすべて中継可能という算段のようでしたが、最初の Nacra こそ陸風の軽風でターゲットタイムオーバーながらもなんとか終了したものの、次の Laser Radial が Start するころにはほぼ無風となり暫く海上待機。その後、比較的早く海風が吹いてきて、1 時間程度待って Start。

以後は順調にレースを進行させるも、途中の風待ち 1 時間は取り戻せず 5 レース目の Laser のレースが終盤に差し掛かるところで本部船から出た指示が、『次の 49er の Start 時刻は 15 時必達だから Start ラインのセット宜しく』。TV 中継の終了が 15:30 ということで、ターゲットタイムを考えるとちょうど中継終了前に Finish という時間。レースはうまく間にあって無事、テレビ中継終了前に 49er はフィニッシュできましたが、残念ながら、FX は中継外。最近 ISAF が力を入れているのがメディア対応と聞いたことがあったので、先のスタート・シーケンスの変更も含め、なるほどと改めて感じた。



Laser Radial 風待ち待機



470 W 吉田・吉岡組 1 下 TOP! (Finish は惜しくも 3 位)

## ❖ 運営スタッフ/ホスピタリティ

### ○ 運営スタッフ

コース(海上)運営スタッフ(名簿上 6 海面 134 名)、ISAF からの派遣(IRO、IJ 他。同 33 名)、その他の陸上スタッフも含めれば、200 名以上のスタッフと選手からなるこのイベント全体の準備・期間中の統括をしていた Event Director の Bas Edmonds とその補佐役である Event Manager の Olivia Risk が RYA の職員であることに注目したい。もちろん、彼らをサポートする多くのスタッフが陸上にもいるわけであるが、それにしても、これだけのイベントをオーガナイズできるパワーとリーダーシップはすばらしいと思う。

また、これだけ大勢のスタッフがいる中で、日本でよくいる学生の手伝いの的な人をほとんど見なかったことは驚きであった。海上運営のボランティアとしてイギリス各地から WPNSC まで来ていた RYA のメンバーたちは、そのほとんどがそこそこの年齢に達した人たちで、その中には、会うのが何度目かの人たちもいるが、それ以外の人たちも非常に暖かく、また共通しているのは皆、とても楽しそうに、時には自分の用意した運営 Goods を自慢げに誇りながら、皆一様に働き者で、アンカー上げのようなハードな作業もいとわず、手を抜くことなくレース運営を行っている姿を見ると、本当にヨットが好きで手伝いに参加しにきて、多くの経験を積んでいるのだなと感じた。

### ○ ホスピタリティ

SWC では基本なのか、今回の大会会場がやや遠隔地にあって運営スタッフの総数のわりに食事をする場所が近場に少ないためなのか定かではないが、今回は、大会初日、セキュリティ登録時に受け取った運営ボランティア向けのパッケージに、会場である WPNSC のカフェでの夕食券(全日程分)が入っていたのには驚いた。(ホテル泊でない人向けには、同じ場所での朝食券も入っていた模様)

パブ文化の国ですから、他のセーリングクラブ同様、WPNSC のカフェにはバーコーナーもあって、食事をそのままハーバーですとなれば、その前からお酒も飲み始めますし、そしてホテルが一緒の人たちとは、ホテル戻った後にホテルのバーでも引き続きということも多く、おかげで、自分の属するチームのメンバーやそれ以外の RYA 運営スタッフとも長い時間を過ごすことができ非常に有益だった。また、夜のイベントとしては、運営スタッフ向けの別会場でのディナー(招待)やバーベキュースタイルの夕食もあったりと、とてもホスピタリティにあふれ、このような『おもてなし』を日本でもできればと思った。



BBQ に並ぶ IJ の皆さん

## ❖ 最後に

今回の派遣に際しては、JSAF レース委員会の川上委員長をはじめ、いろいろな方々にご協力を頂きましてありがとうございました。また、先に紹介した RYA の Bas と Olivia が、われわれの趣旨を理解して、JSAF からの 3 名を快く受け入れてくれたことにも感謝したいと思います。そして、岡村さん、磯部さん、日本から遠路お疲れ様でした。

今回は RYA 運営スタッフの中での活動がメインとなったため、ISAF のメンバーとは、唯一、日本での IRO セミナー講師だった Nino Shmueli(本大会は 470 海面の IRO)と初日の朝に軽く立ち話程度できたものの、その他のメンバーとは大会期間中、IJ として参加されていた増田さん以外ほとんどというか全く交流する機会がもてなかったのは残念。

とはいっても、今年 1 月から RYA のセミナー等に参加し始めてできたネットワークをこのような形で生かしたことはとても良かったですし、自分自身も、海上でも陸上でも非常に内容の濃い 1 週間を過ごすことができました。そして、今後もいろいろな活動に参加して知見を広げていければと思います。